

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
--

学校名	佐賀市立春日小学校
1 前年度 評価結果の概要	・専門部会運営に力を入れ、児童の課題や達成目標を可視化しつつ具体的な目標の達成を目指してきたことで、一定の成果は得た。次年度は、月1回の4部長会や専門部会においてよりPDCAサイクルを意識して取り組むことで、よりよい学校運営をめざしていく。 ・「学校・学級の一員として役に立っている」と回答した児童は、昨年度よりも10%増加したが、目標値には満たなかった。学校、学級に所属感をもつことが、児童の向上心につながると思うため、居心地のよい学級風土づくりや児童が自分のよさに気づけるような取組に力を入れていく。 ・保護者からの感謝や激励の言葉を今後の学校運営の励みにするとともに、改善に向けた意見も真摯に受け止め、解決策を検討する。
2 学校教育目標	自分から かんがえ すなおに がんばる 春日っ子の育成 ～温もり～
3 本年度の重点目標	① 児童が「学びたい」「分かりたい」と思う授業づくりに努め、主体的な学びができる児童を育成する。 ② 周囲の人やものを大切にできる温もりのある学級・学校づくりを目指す。 ③ 目標に向かってあきらまないでチャレンジするたくましい心と体をもつ児童を育成する。 ④ 家庭・地域との連携を図り、安全に安心して生き生きと活動できる学校づくりを進める。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価				主な担当者	
重点取組			具体的取組		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・児童の主体的な学びにつながる自分の考えを書く活動を取り入れた授業づくりに取り組む。						学習指導部
	○児童の自ら学ぶ力の伸長と家庭学習習慣の形成	○学年ごとの家庭学習の目安の時間、家庭学習が「できる・だいたいできる」と回答した児童・保護者85%以上	・「家庭学習がんばり週間」を実施し、児童と保護者の家庭学習の意識向上と定着を図っていく。 ・家庭学習コーナーを設置し、自主学習の参考例を情報提供することにより、自主学習の活性化を図る。						学習指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手のことを考えた、挨拶・返事・言葉づかいができています。」の項目で、「できています・だいたいできています」と回答した児童・保護者・教師の割合90%以上	・生徒指導協議会で全校児童の状況を共通理解し、全職員で手立てについて考え、共通した指導を行う。 ・児童による委員会（生活委員会や温もり委員会など）と連携しながら進める。 ・職員による「きらり発見活動」 ・春日小独自の「温もりあいさつ」を周知し、広げていく。						生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめをされたり見たりした時に、周りの人にすぐ相談できる」の項目で、「できています・だいたいできています」と回答した児童の割合90%以上。「学校生活を楽しくしている・学校はいじめ防止に取り組んでいる」の項目で、「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者の割合90%以上。	・「いじめ・いのちを考える日」の取組の充実 ・「Q1アンケート」や「さつきりふアンケート」を実施し、児童理解を行う。実施後は早期にヒアリングを行い、いじめの早期発見・早期対応を行う。 ・保護者の相談に迅速に対応する。 ・レインボー作戦のポスターを各学級に掲示し、日ごろから授業などの時間を使って活用し、子どもたちに意識付けできるようにする。						生活指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践						特別活動部
	○特別支援教育の充実	○「気になる児童について共通理解を図り、職員がチームになって、よりよい支援の在り方を探っている」の項目で、「そう思う・ややそう思う」と回答した教師の割合90%以上。	・教育相談を月一回、及び必要に応じて実施し、児童の実態や支援体制について共通理解を図る。 ・気になる児童に対して適切な対応ができるよう、タイムリーにケース会議や連携会議を開き、家庭と学校の両輪で児童を支えていく。						生活指導部
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・全クラスでスポーツチャレンジに取り組み運動やスポーツの楽しさを味わう機会を増やす。 ・全クラスにボール等の遊び道具を配布し、定期的に点検をすることで、運動に親しめる環境を整える。 ・給食指導や、食育に関する授業の中で、食事は大切であるという意識を高める。						保体安全部
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・「性に関する指導計画」を基に、発達段階に応じた性に関する授業を2本以上行う。						保体安全部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○性教育を中心とした、ジェンダー教育への意識の向上	○「ジェンダー教育に対する意識が高まった。」と感じる職員80%以上	・繁忙期等を鑑み、日々の目標達成時間を設定し、時間を意識した働き方を行う。 ・会議の精選と資料のデジタル化等の業務効率化、業務削減を図り、業務改善を推進する。						管理職
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・運営委員会、専門部会等で改善案を検討し、チーム意識を向上する。 ・職員会議、連絡会等で共通理解をし、共通実践を行う。						教頭・主幹教諭・教務主任 専門部長・学年主任

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者	
重点取組			具体的取組		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
◎児童の自己有用感の向上	◎児童が、本校の一員として目標をもち、その実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「学校・学級の一員として役に立っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・各活動の目標の共通理解とその支援 ・各種体験活動における活動の見通しと学びの振り返り（児童一人一人の役割と承認） ・職員による「きらり発見活動」						教務主任 学年主任
○学習規律の定着	○「学びの約束かすが」の実践	○「学びの約束かすが」を守って、学習の準備や学習をすることができる」と回答する児童90%以上	・全校と職員での共通理解を図り、児童の振り返りを定期的に行うだけでなく、職員間でも定期的な振り返りの機会を設け、意識を継続させる。						学習指導部

5 総合評価・次年度への展望	●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育
----------------	------------------------------